

幼稚園名	三十七年度		二十八年度		二十九年度		三十一年度		備考
	年	度	年	度	年	度	年	度	
幼 奏野本町	429	429	572	572	454	454	416	416	
大 磯 幼	178	178	301	301	282	282	290	290	
温 泉 幼	63	63	75	75	96	96			
前 羽 幼	121	121	110	110					
湯 本 幼	62	62	99	99					
酒 勾 幼	58	58	100	100					
諫 訪 幼	100	150	134	134					
ノ 江南幼	25	55	97	97					
	84	55	100	100					
	27	55	121	121					
	107	55	110	110					
	26	57	91	91					
	76	57	105	105					
	25	25	96	96					
	55	46	150	150					
		テスト	申込順	申込順					
		抽せん	（テスト）	（テスト）					
		抽せん	申込順	申込順					
県立上溝	55	55							

資料の届かない所も町村立のものは希望者全員入園が建前である。

私の幼稚園には市制がしかれる前は他町村一町五ヶ村から、小田急やバスで来ている。

現在も其の区域から来ている。隣に昨年一園出来、本年度二園出来る予定となっている。

(奏野市立本町幼稚園)

選抜方法、希望者が定員を超えるとしないと拘わらず面接をする。この面接によって保育上特別な支障があると認められる者は除く。

理由、病歴、平素の教育について考え方、

× × ×

静岡県 入園選抜について

高木 三吉

伊東市には、市立幼稚園(本園分園合わせて)

四、私立一で合計五幼稚園があり、人口約四万の都市としては、幼稚園の数も比較的多く、入園希望者の殆んど全部を収容できることは、誠に嬉しいことである。

本園は昭和二十三年野間教育研究所の実験学校として発足以来、二年保育を本体としているが、入園希望者の実情と就学前教育の重

要性とから、一年保育も入れることとなつて

両方を募集している。年々応募者が増加する

ために、収容力に余裕があつたので漸次定員を増加して、現在は二〇〇名。希望者が定員を超過する場合は、面接の結果によつて判定する。

選抜方法、希望者が定員を超えるとしないと拘わらず面接をする。この面接によって保育上特別な支障があると認められる者は除く。

歌を歌つてごらんなさい。

6、家庭環境の調査(研究所主任担当)父母

との面接によつて、この幼稚園を希望した

く。問題の作製は野間教育研究所でし、実施に当たつては、同所員と、テストに堪能な婦人俱楽部児童相談所員に依頼し、職員と協力し、児童の観察に遺憾のないよう、充分な配慮をしている。

今年実施した問題は次のようなものである。

1、運動能力 片足で五秒以上立つ、片足とび、目をとじて片足で立つ(いずれも右足左足)

2、数量10まで20までのかんじょう。ごいしの数、えんぴつの数。打叩計算8、14。

3、実語能力 口は何をする。足は何をする？ 反対類推 おしおは白い、炭は？

4、絵の中の事物の列挙(武政びねーより)
言葉の復誦。トカがつくことば。

5、空間と色 色紙の名前。四角三角の換写形の差異(武政びねーより)

6、社会性 名前、年、曜日、父母のしごと雨が降つてゐるときは？ 等、一番好きな歌を歌つてごらんなさい。

しつけの担当者は誰か等を聞く。

7、園長と父母との面接 児童に質問しながら、父母とも話しあい、児童を観察し、家庭状況等をも注意してみる。

8、身体検査 疾病がある場合、入園前治療すべきものの注意をする。

以上のテスト並びに面接から、総点数を計算して、IQに相当するグレードをきめ、判定に資する。この結果は、入園後の保育上の参考としているが、大体に於いて、得た点数は、入園後、武政びねー式テストを実施（前記研究所児童相談所員が行う）して得た結果と殆んど一致することからみて、かなりの正確度をもつてることが実証されている。

この面接は、右のように、單に選抜のためのものでなく、保育上の大変な参考記録として活用することに重大な意味がある。

(野間自由幼稚園)

X X X

神奈川県の幼稚園増加についての反省

本田 玄洲

近年幼稚園が各地に設立され園に關係ありますことが新聞や雑誌の紙上にも大きくクローズアップされるようになりましたが、これ

で幼児教育が充分普及され教育の機会均等がみたされたといえましょうか？ 幼児をもたれる家庭の方々はほんとに幼児の成長発達に心されて幼稚園に入園させられるのでしょうか。又幼稚園設置者はほんとに教育事業の尊さから出発されるのでしょうか。一部には解

せない点も否めない事実であります。

何はともあれ幼稚園の数も増し園児の数も年々増加しております現象は或る面、幼児のよい教育の場、よい遊び場が出来たことはよろこばねばなりますまい。（本年は入園希望児が少ないようです。これはここ二、三年の事象ともいわれています）

幼稚園教育本県の実情

本県は川崎、横浜のような都市から小都市町村にまで公、私立を共にして大体施設としては相当数を数えるようになりました。

そこで今では適正配置といいましょうかそろそろ考えなければならないのではないでしょか。

小田原市の現況

幼稚園八、保育所八の施設が数えられます。が人口僅か十二、三万の市では施設数よりもその内容の充実を考えるよう段階と思えます。施設の増加を考えるならば旧市内よりも新市域に望みたいと思います。

本園の入園情況

本園は昭和四年七月に設立され當時は当市に僅か二園で百五十名以上もありましたが、二、三年して附近に出来たため六十名に減少しましたが、また二、三年して他に出来ましたが、この頃は家庭でも幼稚園を理解し初め施設の増したのに八十名か百名になりました。処が大東亜戦争に入り県から戦時保育所に切替えられるよう指令がありましたけれども、幼児教育の立場から幼稚園として苦しい経営をつづけ